

令和7年度 大田区立矢口西小学校 自己評価 報告書

令和8年2月18日

○ 本校の概要

・大正9年に、矢口村立矢口西尋常小学校として開校し、今年度105年の歴史のある学校である。江戸時代に開かれた前身の金子塾から数えると、下丸子の地に約150年の歴史を刻んでいる。
 ・現在は普通学級21学級、特別支援学級4学級、全校児童653人の比較的大規模な学校である。
 ・昭和に建てられた鉄筋校舎が老朽化し、現在、新校舎建設を行っている。校庭が使用できないため、多摩川緑地グラウンドや近隣の学校を使用して、体育の授業や体育的行事を実施している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社会を 創造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケート「わたしは、考えながらものづくりをしたり、プログラミングをしたりすることが好きです」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合	4: 80%以上	・地域の町会、特別出張所、民間団体、企業と連携し、区独自教科「おおたの未来づくり」の実施し、地域社会や人々のウェルビーイングにつながる「もの」や「取組」を創造・発信する学習を行った。 ・移動教室、連合行事、学校行事等の体験活動を通して、自然を大切に感性や豊かな情操、人間関係形成能力、表現力等の育成を行った。 ・キャリア・パスポートを活用し学校内外での体験を振り返り、自分の成長や自分の価値を見直す活動を行った。 ・学校の授業や家庭学習において、一人一台のタブレット端末を活用することで、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成を図った。 ・今後はどの児童も意欲をもって取り組めるように授業を計画していく必要がある。	A	10	○こどもたちの真面目に一生懸命に取り組む姿勢に感心し、また、びっくりいたしました。町会の関係者の方々に体験して頂きたいです。 ○区独自教科の「おおたの未来づくり」の実施に当たり、地域の町会・特別出張所・企業や民間団体等と連携して進めているとのこと、とてもいい取組だと思っております。今後さらなる連携を期待する。矢口地区には多摩川清掃工場や矢口ポンプ所があるので、それらの施設について見学したり学んだりするのは良いのではないかと思います。 ○おおたの未来づくりでは、出張所からの依頼により地域資源である多摩川の保全に関してこどもたちのアイデアを出していただきました。引き続き地域の課題や解決策について積極的にこどもたちに関心をもってもらい、地域に愛着をもってもらいたいと思います。 ○「おおたの未来づくり」では、様々な地域社会を知ることで、個々の可能性を広げ、将来への展望を描く上で大変貴重な機会になったように感じます。 ○こどもたちの心身の育成のために本当に様々な体験活動を準備、実施していただいております。これらの活動を通して、自他を認め、主体的に物事を考え取り組む力を養ったのではないかと思います。 ○あまりがんばりすぎないようにしてください。 ○個別目標1をどうやって実現するだろうかと思っただけで、学習発表会を見て、1年生から6年生までの発表内容が、問題認識、問題解決を含む内容だったので、それを6年間やり続けられれば、個別目標は実現できると思った。ただ、学習発表会の内容に含まれるメッセージを児童が理解しているかの確認が重要かと思う。 ○児童によっては意欲をもって取り組みできていないかたのようか。今後の改善策に記載されていたので気になりました。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上80%未満				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
お世個 お別れ と目 をつ標 担な2 うが 人材 国を際 育都 成市 し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケート「わたしは英語を使ってALTや先生、友達と、あいさつや歌・ゲームなどをしてコミュニケーションを取ろうとしています」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合	4: 80%以上	・毎日配置されている外国語教育指導員(ALT)と連携し、児童がネイティブスピーカーの英語に触れる機会を設定した。 ・全校で人権啓発作品を作成展示することで人権意識の啓発を図った。 ・地域資源の多摩川を教材で扱ったり、音楽の授業で日本の伝統文化である和楽器(こ)に触れたりすることで、地域や日本文化のよさに親しむことができた。 ・持続可能な社会づくりを意識するために、SDGsに関連する教育(環境問題を題材にした取組、白杖体験、高齢者疑似体験等の障がい者理解につながる取組等)を実施した。 ・児童によっては、まだまだ学習活動に対して受け身な姿勢な児童も見られることから、自分事としてとらえられるよう、より身近な教材を活用したり、教材との出会わせ方を工夫したりする必要がある。	A	8	○学校において地域資源について取り扱っていたことで、こどもたちは自分が住んでいる地域に関心と愛着をもってくださると思います。引き続き地域を知りつつ、多様化する国際社会の視点ももってもらえるような教育をしていただければと思います。 ○今後ますます多様性、国際化が進む中で、大変重要な学習内容だと考えます。継続して学習していくことで、個々がより身近に、より真剣に取り組む、自ら学び考える力を養ってほしいと思います。 ○あまりがんばりすぎないようにしてください。 ○個別目標2の実現はどの位できるのかと思っただけで、学習発表会を見て、個別目標2は実現できていると思っただけで、集団の発表なので、個人個人がどうなのかは不明。 ○学習発表会での6年生の英語が素晴らしいです。 ○外国語に関しては、学校にALTの配置や外国語を専門としている教員とALTの連携など手厚いと感じる。 ○ネイティブスピーカーの英語に触れるのは効果的だと思う。継続して行うことを期待します。 ○外国籍の児童や保護者が在籍していることで、自然と日本とは異なる文化に触れることのできる校内生活になっているのかなとも感じた。 ○学校として聴覚・視覚障害等の体験などの学びの機会を設けてくださっている中で、保護者の興味・関心が低いと学校のみでの場限りとなるので、家庭でのかかわりがこどもの学びの幅を広げる差になると思う。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上80%未満				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
た一個 め人目 のひ目 基と標 礎り3 とが 個性 力と能 力成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケート「わたしは授業の内容がよく分かります」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合	4: 80%以上	・道徳授業地区公開講座を実施し、家庭・地域と道徳教育への共通理解を図る機会を設定した。 ・下丸子図書館と連携し、学校図書館を活用した、読書活動の充実を図った。また、スクールサポート矢口西を連携し、年間を通して読み聞かせを行った。 ・音楽鑑賞教室や演劇鑑賞、文化芸術体験活動を実施し、豊かな人間性の育成を図った。 ・大田区学習効果測定を実施し、その調査結果を学習カルテとして、夏季の個人面談で保護者へ還元した。 ・月3回程度の朝の時間における体づくり運動、体育授業前のなわとび運動を継続的に実施することで、改革下における体力向上を図った。 ・地域内における保幼小連携活動や合同研修会への参加、矢口中、多摩川小との小中一貫教育の会の実施を通して、他校種との連携を図った。 ・今後も地域教材を生かした授業や体験活動、タブレット端末を活用した効果的な授業を展開し、一層理解が深まる学習を目指す。	A	10	○こどもたちの授業の理解度が高いということは、分かりやすい授業をしてくださっていることと理解します。引き続き、分かりやすく、こどもたちにとって達成感があるような学習を行っていただければと思います。 ○放課後の時間に、学校で学んだことや活動をよく話してくれます。こどもたちに身に付いていると感じています。 ○あまりがんばりすぎないようにしてください。 ○現状、いじめとかの問題を考えると、道徳の授業も重要と思えるけれど、児童個人がどこまで理解して行動に出ているかどうかだろうと思う。 ○算数の授業しか見えていないけれど、習熟度分けをすれば、個に応じた学習が実現できそうな気がする。よいかなと思います。 ○学校の取組としては、十分やっていただいていると感じる。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上80%未満				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上70%未満				
			1: 「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				

<p>学 校 別 力 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p> <p>④教員は校内研究やOJTを通して、自身の指導力を向上させる取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上80%未満</p> <p>2:60%以上70%未満</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・大田区独自教科「おおたの未来づくり」を校内研究及び指導課の指導訪問において、外部講師からの指導・助言をもとに授業改善を図った。</p> <p>・運動会、学習発表会、学校公開における授業公開等を設定し、学校の取組について保護者、地域に発信した。</p> <p>・学校を支える区会計年度任用職員の活用、「夏季休暇等取得推進日」「ノー残業デー」の設定等により、教職員の働き方改革を推進した。</p> <p>・若手教員の意見をもとにした、主幹教諭を中心としたOJT研修の実施することにより、より若手教員の困り感に寄り添った研修を実施できた。</p> <p>・情報発信については、新しく導入された配信システムを積極的に活用し、保護者等に発信していく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>9</p> <p>2</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>○先生方の熱心な指導は保護者の方たちにもしっかりと伝わっていると思います。</p> <p>○研究授業や外部講師による授業の改善、研修の実施など、教育や授業内容の向上のための活動が積極的に進められていると感じます。</p> <p>○教師が個々で問題を抱えることなく、負担削減についても学校全体の課題として熱心に取り組む、工夫し、効率化が進められていることが分かります。</p> <p>○授業を見ていると、デジタル機器を活用して、授業を進めているので、改善されていると思います。</p> <p>○あまりがんびりすぎないようにしてください。</p> <p>○個々の能力に併せて担任の先生が柔軟に対応されているなど感じています。</p>
<p>た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 し ま す</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満の教員が回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満の教員が回答した。</p> <p>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上80%未満</p> <p>2:60%以上70%未満</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・特別支援学級では、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を実施した。また、豊かな人間性をはぐくむことを目的として、通常学級との交流学習を行った。</p> <p>・通常学級に在籍する、知的発達に遅れがなく発達障がいのある児童に対して、在籍校において、巡回指導教員による指導を行った。</p> <p>・命の教育として、SOSの出し方に関する教育やいじめの安全教育を実施し、年3回のいじめ発見のためのアンケートや年2回の学級集団調査(WEBQU)を活用して学級経営に生かした。</p> <p>・不登校児童のために別室を設置して支援員を配置し、担任、養護教諭等と連携して、教室復帰に向けて支援した。また、登校支援員を配置し、自宅に迎えに行く等の支援をした。</p> <p>・2名のスクールカウンセラーと連携し、多様化するこどもの問題や悩みに対する相談や支援を行った。</p> <p>・日本語の理解が不十分な児童に対して、関係機関と連携し、日本語特別指導を実施し</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>9</p> <p>2</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>○こどもたちが安全で安心な学校生活を送るために、日頃から熱心に指導、対策を怠らないうちから、日本中で深刻な事態が日々起きている現状から、「命の教育」や「いじめ」についての教育は、様々な状況を予想設定し、今後も継続して行ってほしいと強く思います。</p> <p>○教室登校が困難である別室登校について、個々の状況に合わせた寄り添った支援を行うことで、利用した児童全てに心の成長が見られ、一時的または継続的に安心する場の提供の大切さ、教室復帰に向けたステップの効果を感じます。</p> <p>○保護者が安心してこどもたちを学校に送り出せる環境づくりは基本的かつ非常に重要だと思います。引き続き、良好な学習環境を維持していただければと思います。</p> <p>○あまりがんびりすぎないようにしてください。</p> <p>○こどもたち自身が小学校の先生に話しやすい環境ができています。</p>
<p>安 柔 個 心 軟 弱 な 目 教 創 標 育 造 環 境 な 学 習 空 間 と 安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③児童が自らすすんでタブレットを活用して調べたり、まとめるようなICT環境を整備し、情報モラル教育もしっかり行う。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上80%未満</p> <p>2:60%以上70%未満</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・学校施設の区関係部署、建設現場と連携して、計画どおり改築を進めている。また、建設現場の見学、改築中しかできないプロジェクトを計画し、実施した。</p> <p>・年11回の避難訓練・不審者対応訓練及び安全指導、関係機関と連携した交通安全教室等において、防災教育、安全教育を実施した。</p> <p>・道徳授業及び関係機関と連携したセーフティ教室等において、情報モラル教育を実施した。</p> <p>・タブレット端末の活用においては、情報の利活用のよさを感じさせながら情報活用能力の向上を図るとともに、自ら正しく情報を扱おうとする意識を醸成できるよう、継続的な情報モラル教育が必要である。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>3</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>○改築工事中でいろいろと制約がある中での学校生活となっているが、外周の仮囲いにこどもたちの描いた絵をはったり、みんなの学校プロジェクトとして杭や壁に学校へ対する思いなどをこどもたちに書いてもらったり、改築中しかできない取組をいろいろと工夫して行っているところは素晴らしいことだと思う。</p> <p>○校舎の改築工事を不慣れた環境ではなく貴重な機会と捉え、様々な体験活動を通して感謝の気持ちや想像力を育み学習に役立てることができていると感じます。</p> <p>○現在校舎の建替え工事中ですが、様々な工夫でこどもたちに負担の無いような学習環境づくりを行っていただければと思います。</p> <p>○あまりがんびりすぎないようにしてください。</p> <p>○低学年からのタブレット学習の良さを実感する一方で、情報モラル教育のさらなる必要性を強く感じます。</p> <p>○定期的な避難訓練も、内容に合わせて避難先を変えています。放課後ひろばも小学校の避難先に沿って行っていきたくと思います。</p>
<p>学 地 学 校 別 校 別 を コ ・ 目 ツ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 域 の 核 運 と 携 し ・ て 協 働 に よ る</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上80%未満</p> <p>2:60%以上70%未満</p> <p>1:60%未満</p>	<p>・コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置し、学校関係者評価や各会での熟議を行った。</p> <p>・児童誘導員の配置及びスクールサポート、PTAと連携した登校の見守り活動を実施し登下校の安全を図った。</p> <p>・保護者会等における家庭教育に関する講話及び家庭教育に関わるお知らせの配布等により家庭の教育力の向上を図った。</p> <p>・より子供たちの成長を支えるための学校運営協議会における熟議の方法について、検討していく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>○学校運営協議会では先生やスクールサポートの方々のお話を伺うことができ、熱心に活動されていることがよく分かります。</p> <p>○保護者の皆様や地域の方々のご理解やご協力をいただくために、こどもたちのために行われる活動の実施報告や協議内容など、しっかり周知し、こどもたちの育成のために同じ方向を向いて歩んでいければと思います。</p> <p>○地域の行事やイベントに積極的に参加することを期待します。</p> <p>○あまりがんびりすぎないようにしてください。</p> <p>○地域コミュニティ・スクールはまだ始まったばかりで評価するには早すぎると思うけれど、どうなるでしょうか。</p> <p>○学校運営協議会の設置は、初年度なので手探りですがこどもたちの目線に立って、活動をしていきたいと思います。</p> <p>○学校運営協議会を通じ、小学校の様々な活動の様子が分かります。</p> <p>○スクールサポートの中の「お助け隊」に登録いただいている方の有効活用を考えたい。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す